

浮気町ならびに住吉神社のいわれ

出典 昭和53年3月31日発行「守山の火まつり」

第一章 祭礼地区の概要

1 地理

守山市浮気（ふけ）町に鎮座する住吉神社の氏子区域は、旧栗太郡浮気村であって、現住、守山市の東南部に位置し、野洲川の左岸三角洲上の沃野に発達をしてきた純農村で、こんもりとした鎮守の森を中心に集落を形成し、豊かな山地に恵まれてきた。



浮気の全景

東に野洲川を距てて秀麗な三上山（428米）を望み、西

・北に国鉄東海道方線が走り、明治45年に開設された守山駅が指呼の間にあって利便である。旧中山道は国鉄とほぼ平行してその西側を走り、旧守山宿にも近い。しかし、この地にも昭和31年以降のわが国経済の高度成長に伴う工場進出が始まり、近くに大工場群が出現して都市化され、村人の生活も一変、勤め人を出さない家はなく、専業の農家はなくなった。

また、主要道路は町の東を南北に琵琶湖大橋線が貫通し、国道八号線と国道一六一号線を、昭和39年に間通した琵琶湖大橋によって結んでいる。

第二次大戦前の田地は約180反で、長方（おさがた）とよばれる地主が10軒ほどあったが、とくに大地主はなく、10反も持っているとは長方といわれ、最高で20反ぐらいであった。現在は宅地・工場用地に転用したために、田地は80反ほどしか残っていない。



南より源昌寺池を望む

2 歴史

住吉神社の伝承

住吉神社の祭神は櫛玉命（クシタマノミコト）・饒速日命（ニギハヤヒノミコト）・住吉三神（海の神…ソコツツノオ命（底筒之男命）、ナカツツノオ命（中筒之男命）、ウワツツノオ命（表筒之男命））で、脇宮に十神師権現を祀って

いる。

同社出緒略記によると、祭神櫛玉・饒速日命は物部氏の遠祖で、この物部氏を祠る物部神社は、浮気の南方約100米の地に俗称サンヤレ山という小高い丘にあったが、大正十二年の耕地整理のときになくなった。この物部守屋七世の孫である物部玉岡宿称道足が、栗太県主としてこの地を領有していた。そして聖武天皇天平11年（739）春にこの地に降臨し給い、道足これを感じて住吉三神を観請したという。こうして何時のころか、物部神社の祭神を合祀がっし、脇宮に十禅師権現を分祀したのが住吉神社の由来と伝えている

3 住吉神社々殿及び工作物

建物は承久2年（1220）浮気定勝が本社を再建し、ついで寛永16年（1639）に再度再建したと伝える。

住吉神社の境内は381坪で、本社は南西面し、建造物・什物はおおよ次の通りである。

- 一、社殿 神明造桧材屋根銅板葺 壱坪四合一勺
- 二、拝殿 入母屋造桧材瓦葺 四坪八合八勺
- 三、八幡宮社殿 神明造桧材屋根銅板葺棟瓦 四合
- 四、大神宮社殿 神明造桧材屋根銅板葺 貳合五勺
- 五、鳥居 明神造石材柱真々壱間三尺 高壱間四尺貳寸
- 六、神饌所 切妻流杉松桧材瓦葺 六坪一合
- 七、祭典用控所 切妻流杉松桧材瓦葺 四坪四合四勺

明治41年11月30日

なお、現在の社務所は昭和49年10月に建てかえたものである。

青年会館 知新連中のものが使う建物で、カリヤと社務所の間にあって、間口四間に奥行二間の平入り建物で東面して建っている。左の端に間口一間の出入口があって、一坪の土間があり、



住吉神社 カリヤ



住吉神社 本社



住吉神社 社頭

突き当りに一帖の板の間、そして右側に二間に二・五間の畳の間、その奥に間口一・五間の押入れと三尺の床が作られている。そして 東側にのみ二間の窓をあけて縦格子を入れている。なお、かつては青年会のことを竜生（りゅうせい）会といったので、この建物も竜生会とよんでいた。



住吉神社 青年会館

4 おこない

1月8日の祭礼を「おこない」といい、この夜12本の松明を神前で燃やし、その神火のまわりを「へえよ へえよ」（御悩平癒）と口々に唱えながら 踊りまわる。伝説によると上御門天皇（1195～1231）御不例の析、夢枕に一人の老翁が現われ、帝の御悩は、我が地に棲む竜の災いで、我れこれを退治して御悩を除くべしと告げた。帝は御身は何処の神なるがな、と問い給うに、我は淡海の国、浮気の神なりという。後旬日（十日）を出ずして帝の御悩平癒し給う。



松明結い

爾来（シライ…それ以来）、氏子はこれを記念して竜体の頭部に似た松明を神前に供え「御悩平癒」を唱へ合う行事が起ったという。

なお、隣町の勝部でも同じ日に火まつりを行うが、この地の松明は蛇の胴体を模している。さらに大津市瀬田の方でも松明行事があって、そこでは蛇の尾部を模していたというが、この方は伝承だけで不明である。



御弓式

5 地名の由来

浮気というのは、往古この地に大淵があって、水気がつねに上昇し、紫気天に浮びて動がず、というような場所だったので浮気と呼ぶに至ったという。つまり湿地帯であった。この淵の跡が現在、集落の南西端にある緑地帯のところで、古老の伝承によると、約90坪あっていつも水が湧いていて鯉や小魚がいた、そして夏になるとここでよく泳いだものだとい、また、この淵がら田用水として蛇ぐるまを3台がら5台使って揚水したという。縁地帯にしたのは昭和49年4月で、住吉神社の飛地境内となっている。

6 行政の変遷

江戸時代初期は稲垣藩に属していたが、元禄年中年（１６８８～）以降、旗本酒井家（七千石）の知行所となり、浮気に陣屋をかまえ明治維新に至った。

明治２２年の町村制の施行によって、栗太郡伊勢・阿・今宿・二町・焰魔堂・勝部・浮気・古高・大門・横江・千代の１１か村が合併し、古昔の物部庄にちなんで「物部村」と称した。そして昭和１６年７月に野洲郡守山町と栗太郡物部村とが合併、新しく野洲郡守山町が誕生した。ついで同４５年７月に市制を実施、現在に至っている。

編集 平成２６年２月

インターネットより参照 十禅師

	旧称	本地	所在地
上七社 (山王七社)	大宮(大比叡)	釈迦如来	
	二宮(小比叡)	薬師如来	
	聖真子	阿弥陀如来	
	八王子	千手観世音菩薩	八王子山頂
	客人	十一面観世音菩薩	
	十禅師	地藏菩薩	東本宮境内(妃)
	三宮	普賢菩薩	八王子山頂
中七社	大行事	毘沙門天	東本宮境内(父)
	牛御子	大威徳明王	牛尾神社拝殿内
	新行事	持国天または吉祥天	東本宮境内(母)
	下八王子	虚空蔵菩薩	東本宮参道
	早尾	不動明王	境内入口附近
	王子	文殊菩薩	境外・止観院の附近
	聖女	如意輪観音	宇佐宮境内
下七社	小禅師	竜樹菩薩または弥勒菩薩	東本宮境内(子)
	大宮龍殿	大日如来	西本宮境内
	二宮龍殿	日光・月光	東本宮境内
	山末	摩利支天	東本宮参道
	岩滝	弁財天	東本宮参道
	剱宮	俱利伽羅不動	白山姫神社境内
	氣比	聖観音菩薩または大日如来または阿弥陀如来	宇佐宮境内